

国立大学法人九州工業大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

九州工業大学は、確固としたもの創り技術を有する志の高い高度技術者の養成を基本的な目標とし、教育・研究の高度化を図り、今後も「知と文化情報発信拠点」であり続けるとともに、「知の源泉」として地域社会の要請に応え、次世代産業の創出・育成に貢献する、個性豊かな工学系大学を目指している。第2期中期目標期間においては、研究と社会貢献を礎として、グローバル・エンジニアを養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、戸畑キャンパスに新設した明専寮において、ネイティブスピーカーによる少人数制の語学強化プログラム等を実施しているほか、地場企業に研究者を派遣する地域連携出前講座プログラムや社会人技術者の高度化を図るドクターチャレンジプログラムの実施について準備を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、海外教育研究拠点 MSSC（マレーシア・スーパーサテライトキャンパス）の設置によるグローバル人材育成を目指した戦略的・意欲的な計画（平成25年度に中期計画を変更）を定めて積極的に取り組んでおり、平成25年度においては、MSSC 設置に係る協定の締結や、デュアルディグリープログラムに関する覚書を交わし学生を1名マレーシアのプトラ大学へ派遣しているほか、各種のプログラムにより100名超の学生をMSSCへ派遣している。

(機能強化に向けた取組状況)

地域、国及び世界的課題を解決する研究プロジェクトを増加させるため、社会ロボット具現化センター及びディペンダブル集積システム研究センターを新たに設置するとともに、産業技術総合研究所及び北九州市との協定に基づき、連絡協議会を開催し、研究開発や人材育成の連携・相互協力について検討するなど、大学の強みや特色を生かした先進的な研究や学際的な研究を推進している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長のリーダーシップを支え、大学改革に向けて迅速かつ機動的に企画立案を行い、実行する「戦略企画室」と、教育に対する社会のニーズや国が推進する教育改革に戦略的に対応し、迅速な意思決定ができる新たな教育組織として、教育企画室及び学習教育センターから構成される「教育高度化推進機構」を平成26年4月に設置することとしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①自己収入の安定的確保、②経費の抑制)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 複写機の契約方式の継続的な見直しや PPC 用紙の一括調達、大学の主要会議である役員会、教育研究評議会、経営協議会において、タブレット型多機能端末等を活用したペーパーレス会議を実施するなど、管理的経費節減に向けた取組を進め、対前年度比で657万円削減している。(対前年度比1.0%減)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学生募集に向けた取組として、新聞広告については近隣地域のみならず、全国版に広告掲載をシリーズで行うとともに、高校生の利用が多い進路・進学ウェブサイトの情報発信の力を入れるなど、費用対効果を踏まえた情報公開を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**課題**がある。

- 化学物質排出移動量届出制度の報告義務違反及び高圧ガス保安法違反があったこと

から、管理・保管体制について徹底した見直しを行い、再発防止に向けた積極的な取組を行うことが望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 先行する飯塚キャンパスのグループワーク向け教室「MILAiS」の学習効果を検証するとともに、活用状況を参考にして戸畑キャンパスに製図系の授業にも対応した「MILAiS」を新設し、グループ学習を含むアクティブ・ラーニングを全学的に促進している。
- コンテストや講習会・勉強会、提案型プロジェクト等、学外で開催される実戦的で多様な学びの機会の情報提供や応募書類の添削アドバイス等の支援をする「未踏塾」を開催することにより、独立行政法人情報処理推進機構が実施する「未踏 IT 人材発掘・育成事業」へ5名が応募するなど、学生の主体性向上に効果を上げている。
- 事前の留学目標の設定から事後評価によるフォローアップ等、目的意識をしっかりと設定した海外派遣型グローバル教育プログラムを作成し、マレーシアのプトラ大学内に設置した海外教育研究拠点(MSSC)に学部生を派遣している。また、派遣学生に対するインタビューやレポートの結果から、本プログラムの有用性を確認し、平成26年度はMSSCを拠点として海外インターンシップ先の拡大や、派遣学生を増加させることを決定している。
- 「北九州地域産業人材育成フォーラム」の地場企業に研究者を派遣する地域連携出前講座プログラムや社会人技術者の高度化を図るドクターチャレンジプログラムの実施について、北九州活性化協議会と協議し準備を進めているほか、中核人材育成事業や情報教育支援士養成プログラムを継続して実施するなど、産業界等との連携を積極的に強化している。
- 戸畑キャンパスに新設した明専寮では教育プログラムへの参加を義務付け、グローバルリーダー教育の一環として教養教育プログラムを9回(うち3回は学外有識者講演会)、ネイティブスピーカーによる少人数制の語学強化プログラムを30回実施しているほか、国際感覚を養成する空間としてランゲッジ・ラウンジを新設し、留学生との日常的な交流等による学内のグローバル化を実現している。